

平成 21 年度広域ブロック自立施策等推進調査

交流連携推進調査報告書

平成 22 年 3 月

国土交通省中国地方整備局

【要約編】

目次

1. 業務概要	1
1) 業務目的	1
2) 業務フロー	2
2. 地域コア構築のための課題抽出	3
1) 中国圏広域地方計画（平成21年8月）における記載内容	3
2) 地域コア構築の意義・必要性・課題	5
3. 地域コアイメージの検討	6
1) 中国圏における地域コアのイメージ	6
2) 地域コアイメージの具体化	7
4. 地域コアイメージの有効性検証のための試行的調査	10
1) 試行的調査実施地域の概要	10
2) 試行的調査実施に向けた検討	17
3) 試行的調査の概要	21
4) 試行的調査の評価（アンケート調査結果からみた留意事項）	29
5) 試行的調査を踏まえた展開	33
5. 試行的調査を基にした広域的地域活性化推進に関する検討	34
1) 試行的調査から得られた知見	34
2) 地域コア活用による広域的地域活性化推進に関する検討	37

1. 業務概要

1) 業務目的

中国圏は、中国圏広域地方計画に記してあるとおり、全国に先行して人口減少・高齢化が進展しており、中山間地域や島しょ部においては集落の衰退が懸念されるなどの危機にも直面している。

自立した中国圏を創造するためには、中山間地域や島しょ部などの中国圏の多様な地域の個性を活かし、個々の地域の活性化を図るだけでなく、多様な地域の連携により広域的な地域の活性化を図ることが必要である。とくに、中山間地域および島しょ部の維持・活性化にあたっては、個別の支援拠点（地域コア）の構築と地域拠点相互の広域連携、また地域を支える人材、組織（仕組み）の育成が急務である。

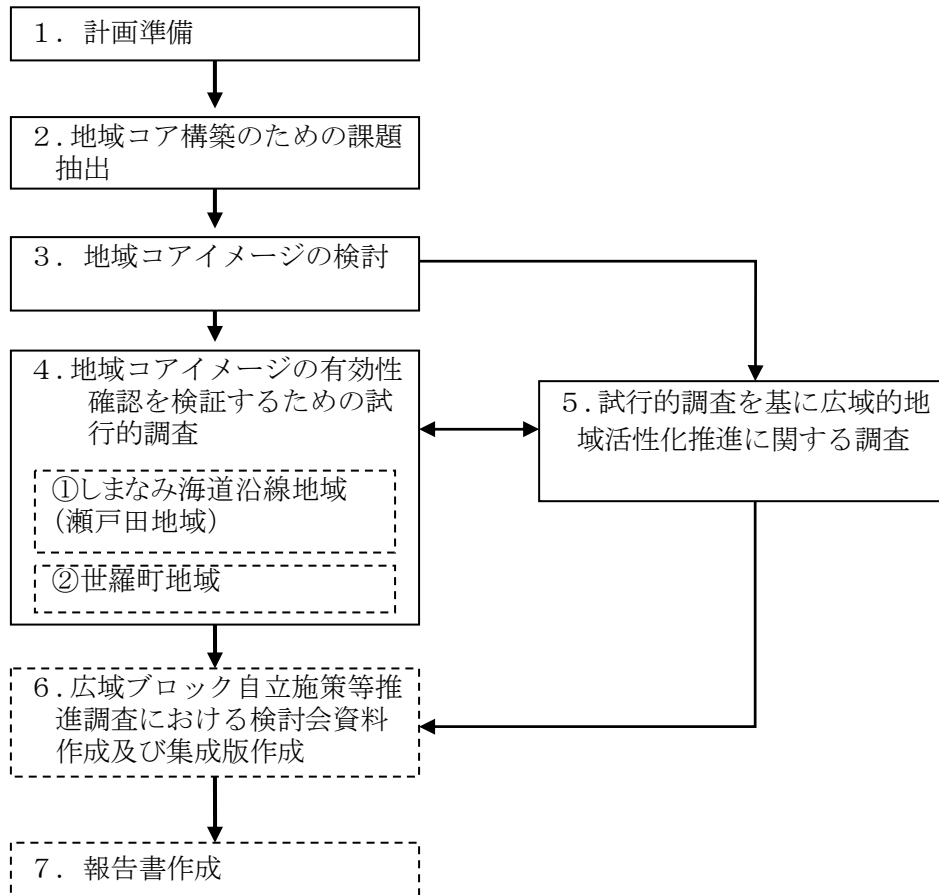
本調査では、しまなみ海道が開通し既に10年が経過するとともに、中国横断自動車道尾道松江線（新交通軸）の整備が予定されているしまなみ海道沿線地域及び尾道松江線沿線地域をモデル地域として、中山間地域および島しょ部における地域コアを活用した交流連携の方策について検討するものである。

モデル地域においては、地域全体のブランドやイメージを高めるとともに、単に観光客の通過型に終わらない、立ち寄り（場合によっては滞留型）の新交通軸沿線地域となっていくため、地域住民主導のもと、地域内のソフト、ハードの地域拠点づくり（地域コア）に向けたきっかけになっていくことや、地域拠点（地域コア）同士が広域的に連携していくことを期待するものであり、併せて、こうした取組を担っていただけの方のグループ（受け皿）づくりにつながっていくことを期待するものである。

2) 業務フロー

各業務内容間の関連を下図のように捉え、下記のフローに基づき業務を実施する。

業務フロー



2. 地域コア構築のための課題抽出

1) 中国圏広域地方計画（平成 21 年 8 月）における記載内容

中国圏広域地方計画では、「第 2 章 中国圏の将来像」の「第 1 節 地域の多様性を活かした交流・連携で、持続的に発展する中国圏」の中の「1. 多様な地域が連携した一体感のある中国圏の形成」において、以下のように、地域の相互連携の強化をもって自立した中国圏の形成を図る将来像が提示されている。

中国圏は、様々なつながりをもった多様性のある地域で構成されている。各地域の個性を活かしつつ、広域的に一体感があり、自立的な中国圏を創造するため、地域の個性や魅力の源泉となる歴史、文化、自然、景観等を再認識し、その継承・創造を図るとともに、分散する都市を活かし、それぞれが役割を發揮して相互に連携強化することで自立的な中国圏の形成を図る。（中国圏広域地方計画 p. 7）

また、同項の「(1) 歴史・文化の継承、創造」では、以下のように地域資源を活かした地域間交流による中国圏のアイデンティティと一体感の高揚に向けた言及がなされている。

日本海沿岸地域、中国山地地域、瀬戸内海地域や山陰・山陽間における歴史・文化のブランド化・ネットワーク化とそれらを活かした地域間交流の推進や積極的な情報発信により、中国圏としてのアイデンティティと一体感の高揚を図る。（中国圏広域地方計画 p. 8）

さらに、同項の「(3) 都市と中山間地域等の多様な交流の拡大」では、以下のように中国圏の特性を活かした都市と中山間地域の交流促進及び、拠点形成に向けた言及がなされている。

都市と豊かな自然を有する地域とが近接・共存している中国圏においては、多様なライフスタイルを提供できる地域のポテンシャルを活かし、都市と中山間地域等の多様な交流の拡大を図る。

（中略）

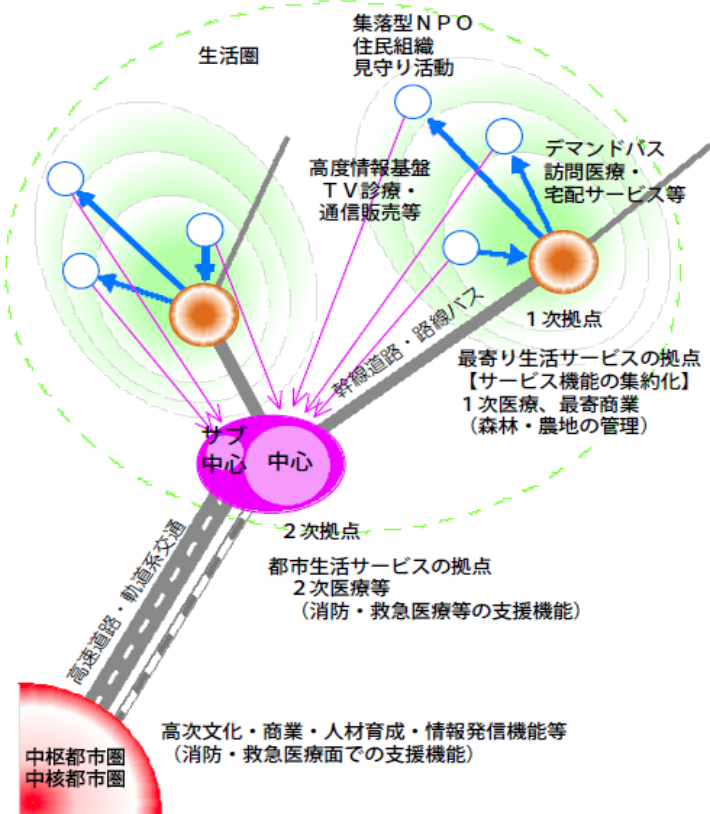
農山漁村への体験型・滞在型ツーリズム（グリーンツーリズム・スロツーリズム）、直売所や道の駅等を活用した都市農村交流拠点の形成等によって、中山間地域等の地域資源を活かした交流、産業の振興を図る。（中国圏広域地方計画 p. 8）

また、「第 1 節 地域の多様性を活かした交流・連携で、持続的に発展する中国圏」の中の「2. 隣接圏域を含めた交流・連携による活力・魅力の向上」においては、「(3) 広域的な連携による観光振興の促進」として、以下のように観光振興に向けた地域間連携促進および広域的なルート設定や交通基盤整備に向けた言及がなされている。

地域間連携を通じて観光地の魅力・誘客力を相乗的に高めるため、日本海沿岸地域、中国山地地域、瀬戸内海地域、さらには隣接圏域等との間で広域観光ルートの設定・強化を図る。これにあわせて、観光地間を結ぶ広域交通基盤及び空港・駅等から観光地までの二次交通基盤の整備・充実を進める。（中国圏広域地方計画 p. 11）

また、「第3章 将来像実現に向けたプロジェクト」の「7. 中山間地域・島しょ部における多面的機能の保全・活用と暮らし安心プロジェクト」においては、中山間地域等を支える一次生活拠点機能の充実について記載があり、右図のような生活圏のイメージが提示されており、中山間地域や島しょ部の生活を支えるために、最寄り生活サービスの拠点となる1次拠点、都市生活サービスの拠点となる2次拠点などの拠点と、それぞれをつなぐネットワークが必要との認識がある。

■生活圏のイメージ



以上を踏まえると、中国圏広域地方計画においては、中山間地域や島しょ部など、中国圏の多様な地域の個性を活かし、自立した中国圏を創造するために、ハード面の拠点やネットワークが必要であるとともに、地域資源の発掘やブランド化、アイデンティティの形成などソフト面の中心的テーマ形成及びネットワークが必要であるとの認識がある。

2) 地域コア構築の意義・必要性・課題

自立した中国圏の創造を考える上で、最終的な理想像を考えると、それは各地域（特に中山間地域・島嶼部）が元気になることであり、そのためには以下の3つの要素が必要であると考えられる。

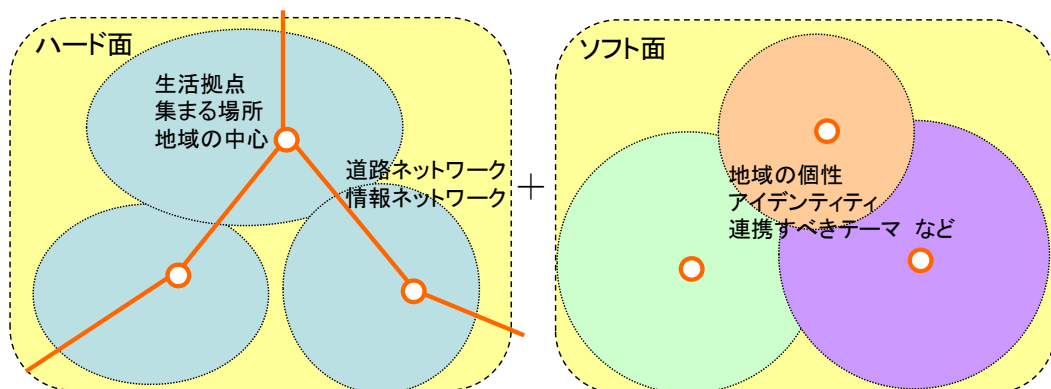
- 経済的な自立を目指すこと
 - ・・・観光、福祉、通勤、農業など、小さな経済、多様な経済で支えられる地域
- 誇りと愛着を持てること、自信を持つこと
 - ・・・地域にプライドを持つことができる地域
- 住民同士が信頼関係でつながること
 - ・・・マンネリにならず、絶えず連携、話し合いがある地域

また、1) で述べた中国圏広域地方計画で提示されているハード面及びソフト面の拠点とネットワークについて、その形成方法については検討する必要があるものの、自立した中国圏の創造を考える上での必要性は認識されている。

以上を踏まえると、生活拠点や道路などハード面と、地域のアイデンティティや連携するための共通テーマなどのソフト面の両面において、各地域の元気を創出する中心的な拠点やテーマが求められており、それらを「地域コア」と捉え、その構築を推進していくことが自立した中国圏の創造に資すると考えられる。

そのような「地域コア」構築に向けて、各地域で活用すべき「地域コア」の設定手法や、地域の連携強化のための「地域コア」設定手法など、どのように「地域コア」を作っていくかが課題と言える。

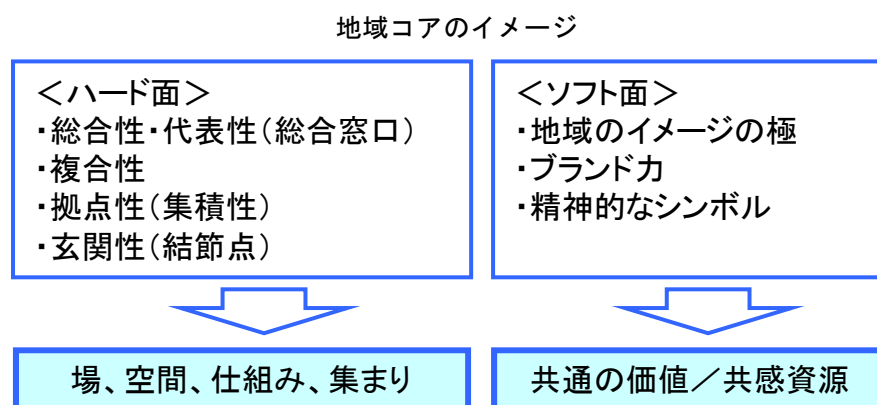
地域コアの考え方



3. 地域コアイメージの検討

1) 中国圏における地域コアのイメージ

前章を踏まえると地域コアに期待されるイメージとして、ハード面、ソフト面それぞれに下記のような項目が挙げられる。これらをまとめて表すと、ハード面では「場、空間、仕組み、集まり」、ソフト面では「共通の価値／共感資源」といえる。これらは、地域住民や交流人口等多様な主体によって形成されるものであり、地域住民だけのものでもなく、都市住民だけのものでもない。



2) 地域コアイメージの具体化

(1) 中国圏における地域コアの具体的な内容

ハード面での「地域コア」の設定にあたっては、広域的な波及効果が最も高くなるように、その戦略上の位置づけが重要である。例えば、ICに近接した場所、市街地内に残る空き施設・空間、交流・連携上の結節場所などを検討する必要がある。

ソフト面での「地域コア」は、地域のアイデンティティ形成につながるものが求められ、地域の人々が共感できる資源・テーマであることが重要である。関心のある人が横断的に集まることができるよう、地域内で様々な「地域コア」を設定する必要がある。

また、コアの特性として地域内をつなぐ際のコアと広域的につなぐ際のコアが考えられ、対象となるエリアに応じて検討していく必要がある。

中国圏における地域コアの具体的な内容

	<ハード面>	<ソフト面>
地域内(旧市町村単位程度)をつなぐコア	<ul style="list-style-type: none"> ■ 公的資源 ・ 役場、公民館等公的施設 ■ 交通資源 ・ 交通ターミナル (JR駅、IC、バスセンター等) ■ 生活資源 ・ 中心市街地、商店街 ・ 空き施設(遊休施設) ・ ショッピングセンター ■ 観光・情報資源 ・ 観光地、道の駅 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 歴史・文化資源 ・ 伝統芸能(神楽など) ■ 産業・技術資源 ・ モノづくり産業 ・ 手工芸品 ・ 職人・匠 ・ その他福祉資源、教育資源など...
広域的(複数地域)につなぐコア	<ul style="list-style-type: none"> ■ 交通資源 ・ 高速道路、国道、地域SNS など 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 歴史・文化資源 ・ 歴史街道(西国街道、銀山街道など) ■ 自然・環境資源 ・ 流域圏 ・ 海(瀬戸内海など) ・ 山(中国山地など)

(2) 地域コアを活用した地域活性化の具体例

中国圏の各地域においては、既に「地域コア」を活用した地域活性化を図る動きが見受けられる。以下に例示している夢街道ルネサンスはその一例であり、昔の「街道」を「地域コア」として各地域が取り組んでおり、広域的にも連携を図っている。また、ハード面での拠点の事例としては、岡山県新見市のきらめき広場・哲西が挙げられ、多様な機能を集約することにより地域内外の交流拠点となっている。

◇地域コア活用の具体例～夢街道ルネサンス

(出典) <http://www.cgr.mlit.go.jp/cgkansen/yumekaidou/index.html>

<概要>

地域が元気になるためには、地域が「誇り」を取り戻すことが重要であり、そのためには、中国地方に数多く存在する歴史・文化・自然を再発見し、活用することは、一つの重要な選択肢であると考えられます。歴史をふり返ると、昔の「街道」は、ただ単に物資の輸送路のためだけではなく、多くの人、物、情報が行き交うことによって、沿道の人々の歴史・文化を育んできました。

新しい時代に向けての「みちづくり」が問われている今、「みち」と「地域」と「ひと」が一体となって発展していくことが重要と考えられます。そこで、本プロジェクトは、歴史・文化・自然を再発見するとともに、それらを活かした地域づくり、みちづくりを地域が主体となって展開していけるよう支援していくものです。



ルネサンス
～中国路 歩いて・感じて・伝えたい～

◇地域コア活用の具体例～きらめき広場・哲西

(出典) <http://www.npo-kirameki.jp/chugoku.html>

<概要>

庁舎、診療所（内科、歯科、薬局）、図書館、保健福祉センター、文化ホールを一体化した総合施設として2001年10月に完成。総事業費は約21.7億円。自由度の確保のため国庫補助金は一切なく、町単独で施設整備を行った。旧哲西町の中心地、国道182号線沿いに位置し、敷地面積は約2万㎡。文化伝習館のある道の駅「鯉が窪」が隣接。その他、「きらめき広場・哲西」の整備と同時に、商工会議所、信用金庫が近隣に移転してきている。



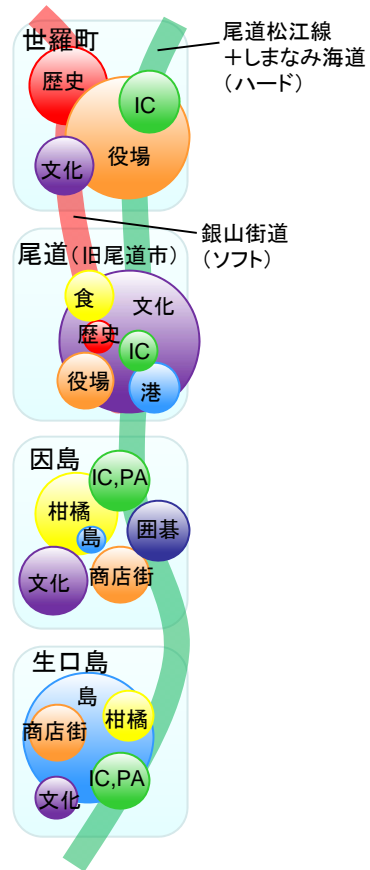
(3) 地域コアの即地的イメージ

地域コアを活用した地域活性化は中国圏の各地域で求められており、特に中山間地域や島しょ部においては、中国圏の持続的な発展を支える意味からも重要な視点と言える。

ここでは、過疎・高齢化などの問題を抱え、地域の活性化が急務となっている中山間地域及び島しょ部のモデル地域として、開通から10年を経過しているしまなみ海道および新たに整備が予定されている中国横断自動車道尾道松江線の沿線について、地域コアの即地的イメージを示す。

ハード面の地域コア及びソフト面の地域コアが各地域毎に重複して存在し、それらを広域的につなぐ地域コアも存在している。

「地域コア」のイメージ
(尾道市、世羅町を例として)



4. 地域コアイメージの有効性検証のための試行的調査

1) 試行的調査実施地域の概要

前章において検討した地域コアイメージについて、中山間地域及び島しょ部の地域特性に応じた有効性を検証するため、2つのモデル地域において、新交通軸を活用した観光支援・地域振興・拠点機能等について試行的調査を行った。

試行的調査の実施内容については、試行的調査実施地域の現状、特性をふまえ、実施地域ごとに地域内外の分野横断的なメンバーによる会議を設け、検討を行った。

(1) 試行的調査実施地域の選定

試行的調査実施地域は、中山間地域及び島しょ部のモデル性を有しており、また地域同士が近接しており交通軸（特に新たな交通軸である中国横断自動車道尾道松江線）により連携する可能性があることを考慮し、しまなみ海道沿線地域（尾道市瀬戸田地域）及び世羅町地域とした。

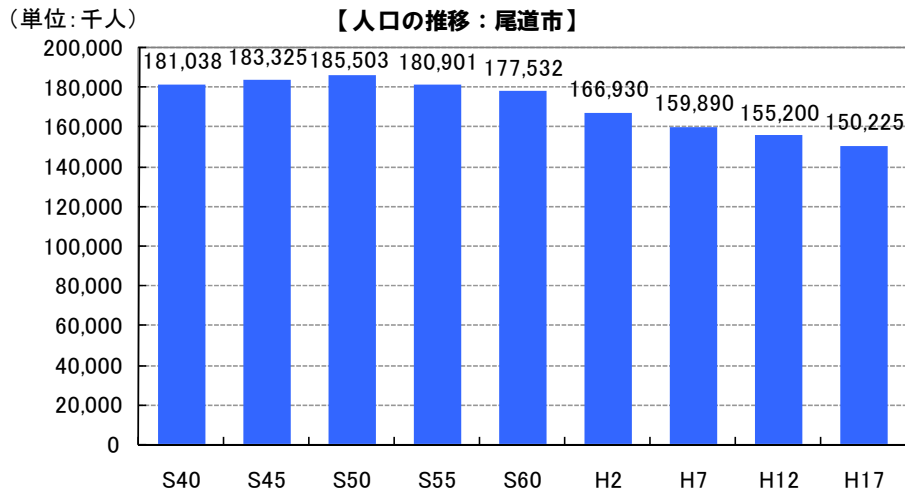
試行的調査実施地域位置図



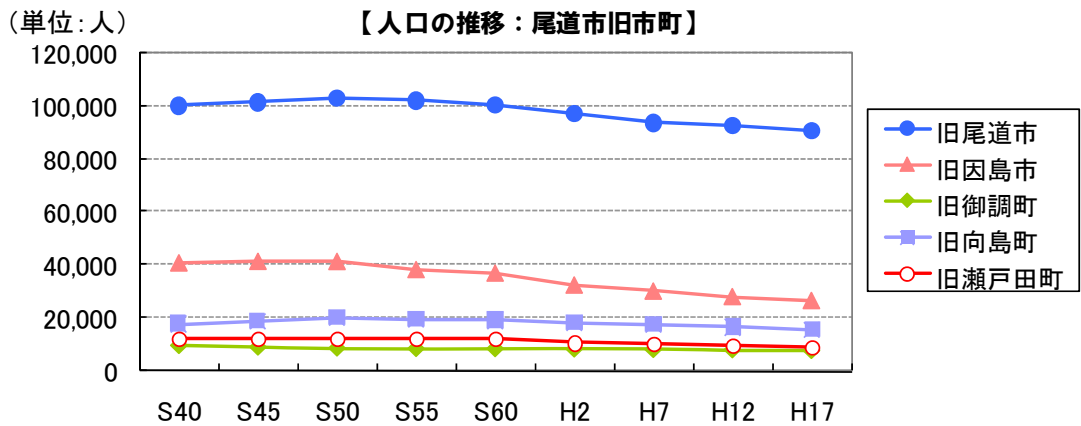
(2) 試行的調査実施地域の現状・特性

①人口

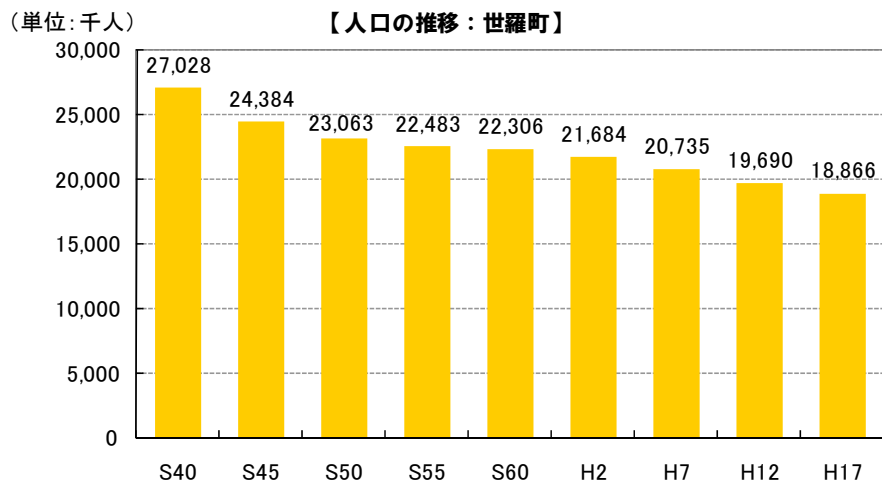
試行的調査実施地域である瀬戸田地域（旧瀬戸田町）、世羅町はともに人口減少傾向にあり、人口のピークが昭和50年頃と全国に先駆けて人口減少が進んでいる中国地方の中山間地域・島しょ部の特徴を有している。



(資料) 国勢調査



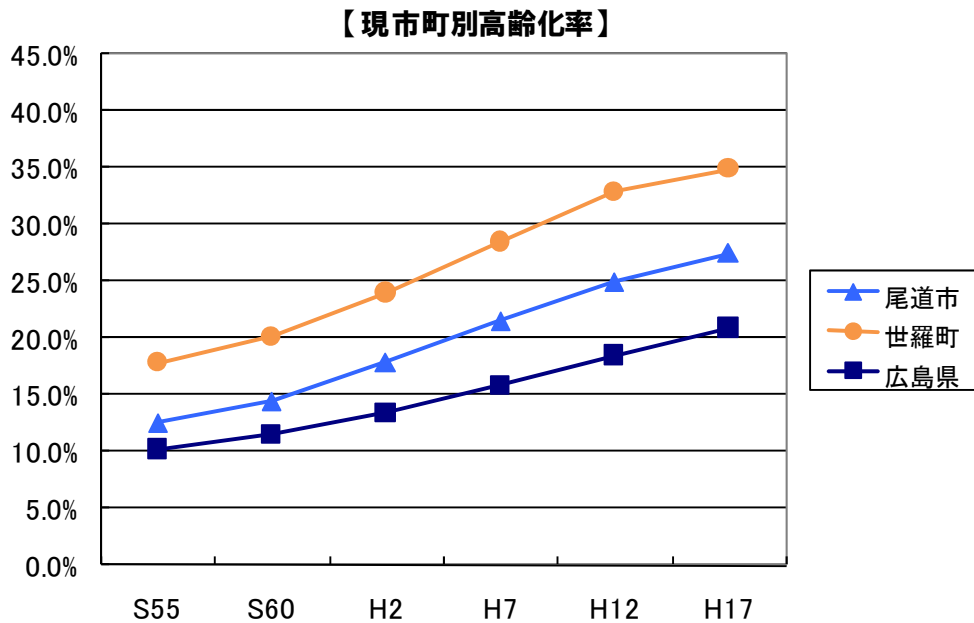
(資料) 国勢調査



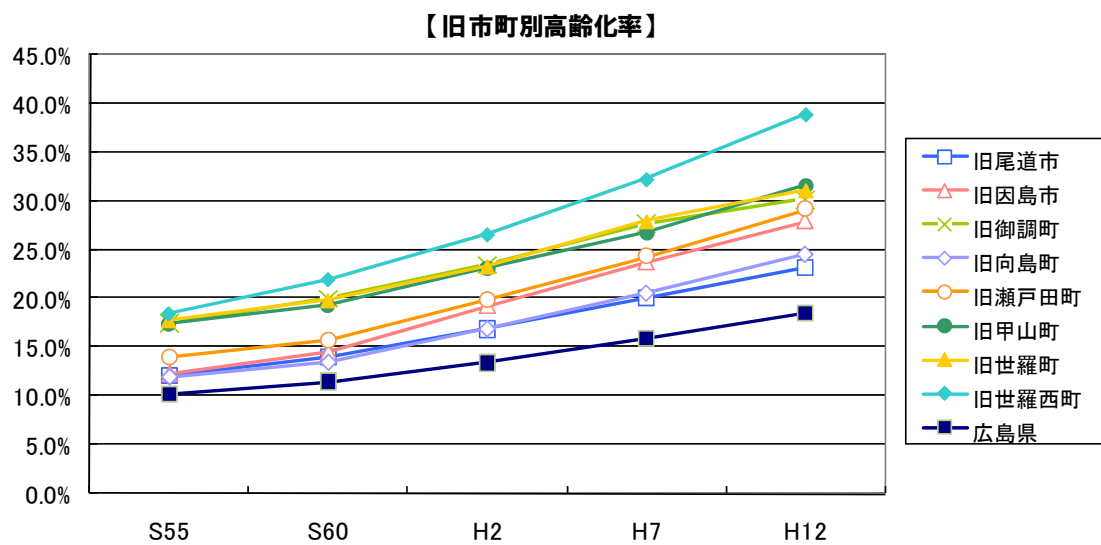
(資料) 国勢調査

②高齢化率

高齢化率は両地域とも年々増加傾向にあり、世羅町では35%に達している。



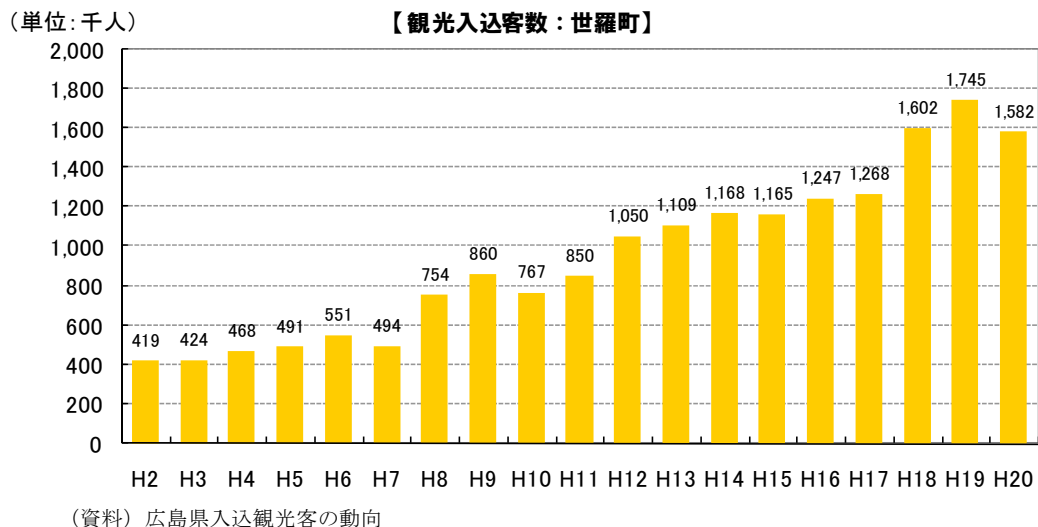
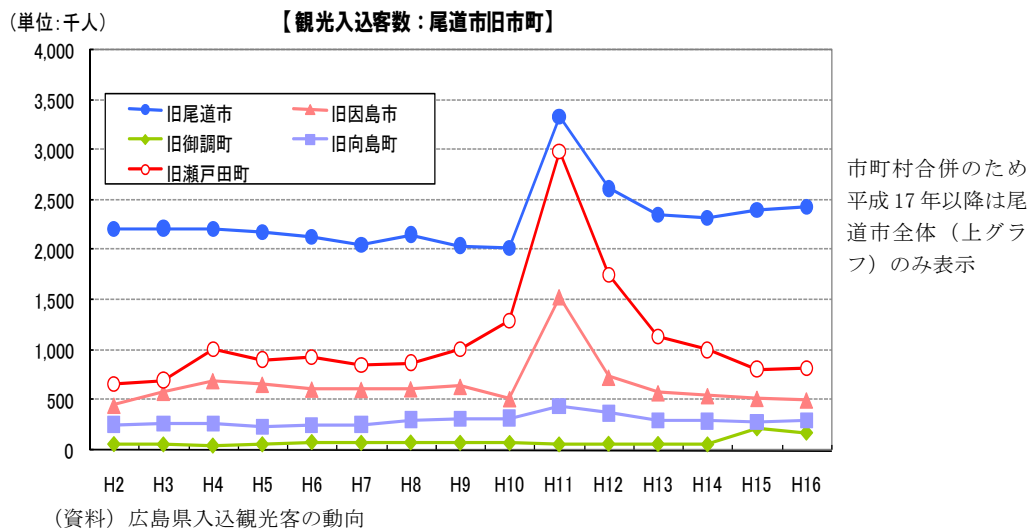
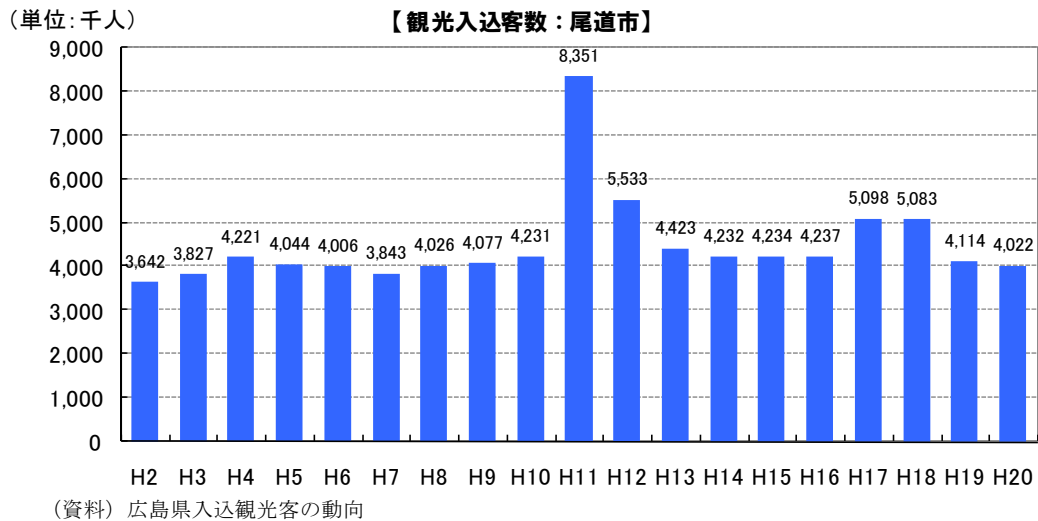
(資料) 国勢調査



(資料) 国勢調査 ※平成17年データは合併後市町村(現市町)において表示

③観光入込客数

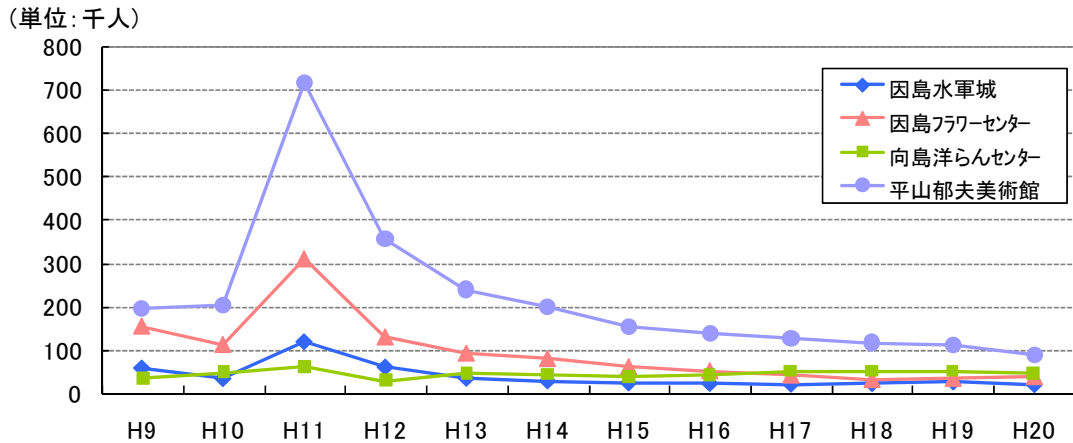
観光入込客数は、しまなみ海道沿線の尾道市の各地域では、しまなみ海道が開通した平成11年に突出した入込客数を記録しているが、近年は開通前と同程度となっている。世羅町においては、花観光や果樹観光により増加傾向にある。



④主要有料観光地入込客数

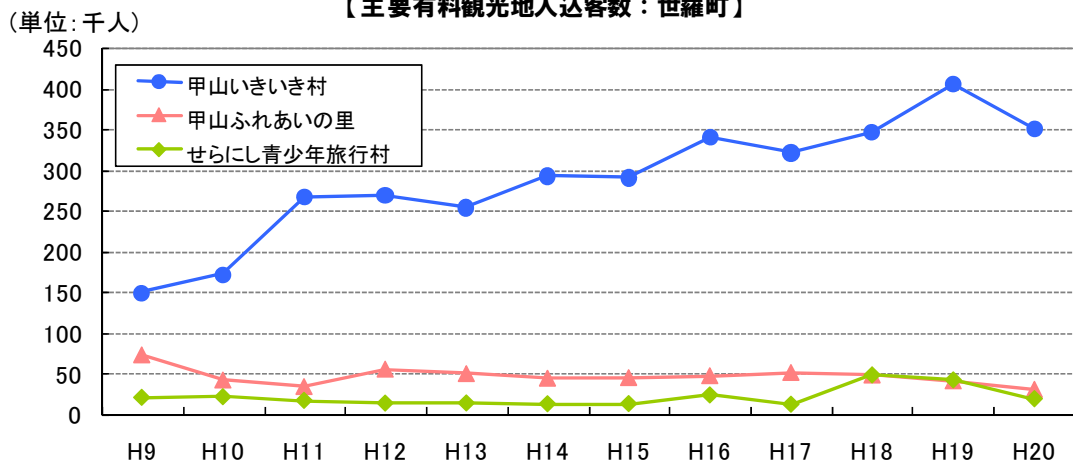
観光施設別にみると、尾道市の島しょ部及び世羅町において最も入込客が多いのは世羅町の甲山いきいき村で年間約35万人の集客があり、世羅町の拠点的観光施設といえる。その他の施設は10万人以下となっており、観光施設としての拠点性は小さい。

【主要有料観光地入込客数：尾道市諸島地区】



(資料) 広島県入込観光客の動向

【主要有料観光地入込客数：世羅町】

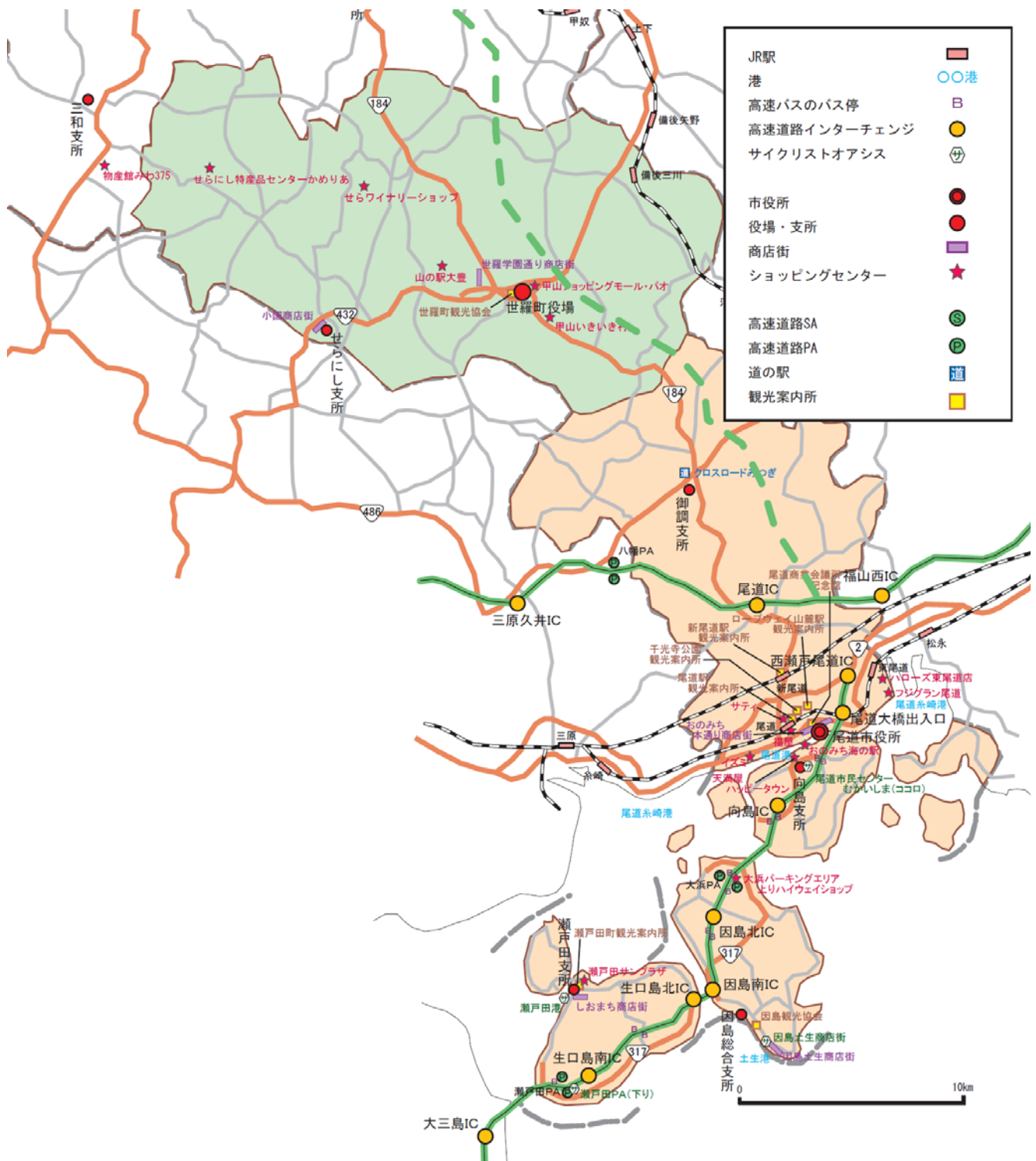


(資料) 広島県入込観光客の動向

⑤拠点的資源の分布

尾道市及び世羅町の拠点的資源について、地図上で整理したものが以下の図である。JR 駅や港などの交通拠点、市役所などの公的施設、商店街やショッピングセンターなどの商業施設、高速道路 SA/PA、道の駅などの情報拠点施設についてプロットしている。

地図をみると、尾道市中心部への拠点的資源の集積がみられるほかは、各施設が散在している。



⑥試行的調査実施地域の現状・特性のまとめ

前項までに得られた現状・特性をまとめると以下の通りであり、両地域とも「地域コア」となりうるハード、ソフトの地域資源を有していることが確認できた。

◇尾道市瀬戸田地域

平成 18 年 1 月に尾道市、因島市、瀬戸田町が合併し、瀬戸田地域は尾道市となっている。人口は約 9,000 人。観光資源として、平山郁夫美術館、耕三寺博物館、シトラスパーク等のほか、柑橘やレモンの島、独特の島文化など、地域資源が豊富な島である。

しまなみ海道開通（平成 11 年）から 10 年が経過し、開通時の一時的な観光客の増大はあったが、現在までに観光客は減少傾向が継続している。

瀬戸田地域の中心部には、瀬戸田港から耕三寺にかけての東西に伸びるしおまち商店街があり、耕三寺参詣客を対象とした土産物屋や飲食店が並び、しまなみ海道開通以前は船舶による瀬戸田港からの観光客で賑わっていた。しおまち商店街の中ほどには、元郵便局長の母屋だった旧家を休憩所として改装した「汐待亭」があり、観光の際の交流拠点となっている。

◇世羅町地域

平成 16 年 4 月に旧甲山町、旧世羅町、旧世羅西町が合併し、世羅町となっている。人口は約 18,000 人。広島県側では初めて、中国横断自動車道尾道－甲山間が平成 22 年度に部分開通する予定となっている。

合併時に世羅町役場は旧甲山町役場におかれ、世羅町商工会、世羅町観光協会、甲山自治センター等と隣接し、高速バスのバス停などの交通拠点と合わせて地域の拠点となっている。

観光資源として、花や果樹の観光農園が集積しており、世羅町全体で「農村公園」化構想を打ち出している。また、平成 11 年 7 月に、農業者を中心とした「世羅高原 6 次産業ネットワーク」が結成され、特産品のブランド化や共同 P R 活動、農家・農園等の連携強化、会員相互の情報交換などを通じた農業振興と地域活性化を目的として活動を展開している。

また、鎌倉時代、甲山を中心とする世羅町の東半分は紀州（和歌山県周辺）の高野山領の太田庄であり、「今高野山」が置かれるなど、歴史資源が豊富である。石見銀山で採掘された銀を尾道まで運ぶ銀山街道の宿場町でもあった。

2) 試行的調査実施に向けた検討

(1) 尾道市瀬戸田地域

① 検討体制

瀬戸田地域においては、以下に示す地域内外の分野横断的なメンバーにより「せとだ島・島〴〵ん会議（せとだしまじまんかいぎ）」という会議を立ち上げた。メンバーの中心となったのは、瀬戸田港を拠点とした地域の活性化を図ることを目的として平成16年に設立されたNPO法人せとだ港房であり、平山郁夫美術館ほか瀬戸田地域内の各団体との連絡調整や、尾道観光協会や尾道市など尾道地域との連携を担う存在となった。

◇せとだ島・島〴〵ん会議（せとだしまじまんかいぎ）構成

NPO 法人せとだ港房、平山郁夫美術館、耕三寺博物館、農園、瀬戸田町住民、尾道観光協会、尾道市観光課、尾道市瀬戸田支所、国土交通省福山河川国道事務所、コンサルタント（広島市）、一級建築士事務所（尾道市） ほか
※尾道市観光まちづくり戦略会議メンバーを含む

② 検討スケジュール

試行的調査の内容について検討する「せとだ島・島〴〵ん会議」は11月から3月までに7回開催し、モニターツアー開催に向けて別途ワーキンググループを4回開催した。

◇せとだ島・島〴〵ん会議 開催記録

	日時	参加者数・内容
第1回	平成21年11月4日	参加：14名 ・瀬戸田をとりまく動向について情報共有 ・調査概要説明 ・調査についての意見交換
第2回	11月12日	参加：18名 ・調査実施に当たっての課題整理 ・組織や体制についての意見交換 ・今後のアイデアについての意見交換
第3回	11月26日	参加：19名 ・試行調査としてモニターツアー案の具体化 ・ツアー内容についての意見交換
第4回	12月7日	参加：15名 ・モニターツアーの内容検討 ・実施組織、体制についての意見交換
第5回	平成22年1月7日	参加：20名 ・会議名称の確定 ・試行調査当日の準備、役割分担の確認
第6回	2月18日	参加：15名 ・モニターツアーの報告 ・今後の組織のあり方についての意見交換

第7回	3月11日	参加：12名 ・今後の取組体制についての意見交換 ・平成22年度の取組についての意見交換
-----	-------	--

◇瀬戸田ワーキング会議の開催記録

	日時	参加者数・内容
第1回	平成21年11月1日	参加：11名 ・会議の発足について意見交換 ・今後の活動、組織について意見交換
第2回	11月23日	参加：11名 ・試行調査の内容として「レモン足湯」の実施可能性検討
第3回	12月13日	参加：9名 ・自転車の試行的調査について意見交換 ・瀬戸田のまちづくりについて意見交換
第4回	12月22日	参加：9名 ・モニターツアーの内容検討 ・試行調査後についての意見交換

③主な検討内容

せとだ島・島嶼人会議では、地域コアや検討体制について、主に以下のような内容が話し合われた。

◇試行的調査における「地域コア」について

- ・瀬戸田の持つ「おもてなし」の文化を中心に交流事業を行う。
- ・ハード面では瀬戸田の中心である「しおまち商店街」をフィールドとして、特に「汐待亭」を発着点とした交流事業を行う。
- ・柑橘類の農園など従来は観光事業に関与していなかった主体と積極的に連携し、瀬戸田の柑橘を交流事業に活用する。（農園での柑橘もぎ取り体験、レモン足湯など）
- ・しまなみ海道瀬戸田PAにて実験的に貸し出していた電動アシスト付き自転車を活用し、「自転車」で楽しめる島としてのイメージ構築を図る。
- ・ビジットジャパンイヤーを見据え、訪日外国人観光客の瀬戸内海地域の周遊拠点となるべく、外国人（特に欧米人）のニーズに合わせて興福寺、向上寺など地域の歴史資源を活用する。（座禅体験、歴史ガイド付きまち歩き）
- ・平山郁夫美術館を中心に、平山郁夫画伯の生家やスケッチポイントなどを散策ルートとしてつなぐ。

◇検討体制（せとだ島・島嶼人会議）について

- ・瀬戸田地域内の情報共有・情報交換の場として、せとだ島・島嶼人会議は様々な情報を持ち寄ることができるオープンな場とする。
- ・試行的調査の結果を活かし、平成22年度以降もNPO法人せとだ港房を中心に継続して事業を実施する。

(2) 世羅地域

①検討体制

世羅地域においては、以下に示す地域内外の分野横断的なメンバーにより世羅地域検討委員会という会議を立ち上げ、試行的調査の内容について検討した。地元NPO法人のほか、地元の歴史ガイドの会である世羅すずらんガイドや、平成21年度より新たに専従職員を雇用した世羅町観光協会などが中心となり試行的調査を企画・実施した。

◇世羅地域検討委員会構成

NPO 法人広島・せらマルベリークラブ、花・果樹農園、地元自治会、世羅高原6次産業ネットワーク、世羅町民、世羅すずらんガイド、世羅町商工会、世羅町観光協会、世羅町企画情報課、国土交通省福山河川国道事務所、中国・地域づくり交流会（広島市）、コンサルタント（広島市）、IT関連企業（広島市）ほか

②検討スケジュール

会議は11月から3月までに6回開催し、試行的調査（銀しゃりツアー）開催に向けて別途ワーキンググループを5回開催している。

◇世羅地域検討委員会の開催記録

	日時	参加者数・内容
第1回	平成21年11月13日	参加：14名 ・調査概要説明 ・調査についての意見交換
第2回	12月1日	参加：25名 ・議論の進め方についての意見交換 ・試行的調査のアイデアについての意見交換
第3回	12月16日	参加：21名 ・試行的調査案の提案 ・試行的調査内容についての意見交換 ・実行組織のあり方についての意見交換
第4回	平成22年1月18日	参加：19名 ・試行的調査内容についての意見交換 ・試行的調査の募集方法、役割分担の確認
第5回	2月19日	参加：11名 ・試行的調査内容についての打ち合わせ ・参加者アンケートについての検討
第6回	3月11日	参加：11名 ・試行的調査の報告 ・今後の組織のあり方についての意見交換 ・平成22年度の取組についての意見交換

◇世羅地域ワーキンググループの開催記録

	日時	参加者数・内容
第1回	平成21年12月16日	参加：7名 ・試行的調査内容の詳細検討 ・実行組織についての検討
第2回	12月25日	参加：11名 ・試行的調査内容の詳細検討 ・試行的調査使用コースの現場確認
第3回	平成22年1月18日	参加：10名 ・試行的調査内容の詳細検討 ・試行的調査の役割分担について検討
第4回	2月1日	参加：8名 ・試行的調査内容の詳細検討
第5回	3月3日	参加：9名 ・試行的調査内容の詳細検討 ・当日の役割分担の確認

③主な検討内容

世羅地域検討委員会では、地域コアや検討体制について、主に以下のような内容が話し合われた。

◇試行的調査における「地域コア」について

- ・世羅町の歴史資源である石見銀山街道を中心として、地域の歴史研究者や歴史ガイドの協力を得て多様な歴史資源を巡る試行的調査（交流事業）を行う。
- ・試行的調査（交流事業）の発着は、広い駐車場のある世羅町役場前（甲山自治センター）とする。
- ・世羅町特産のお米に着目し、銀山街道と関連付けた「銀しゃり」を運ぶ企画として、世羅町のお米で作ったおむすびを振舞うなどの地域のおもてなしを盛り込む。
- ・世羅町内の観光農園などを巡るための将来的なツールとして電動アシスト付き自転車に注目し、「エコしゃり」として交流事業で試験的に活用する。

◇世羅地域検討委員会について

- ・試行的調査の実施主体として、この指とまれ方式により多様な主体で構成する「銀しゃりツアー実行委員会」を立ち上げる。
- ・平成22年度以降の継続的な活動を行う主体として、「銀しゃりツアー実行委員会」を引き継ぐ形で組織を形成し、活動を行う。

3) 試行的調査の概要

(1) 尾道市瀬戸田地域

①実施日時

- 日時 平成22年1月23日(日) 午前10:00～午後4:00
- 場所 尾道市瀬戸田町内
- 参加人数 52名(スタッフ等は除く)
- 午前: 全員での共通コース
- 午後: 1コース(興福寺での座禅、レモン足湯コース)
一般参加者25人(外国人9人、通訳6人、その他5人、熟年10人)、
スタッフなど10人
- 2コース(農園でのみかんもぎ取り、電動アシスト自転車コース)
一般参加者(熟年)13人、スタッフなど4人
- 3コース(農園でのみかんもぎ取り体験コース)
一般参加者(熟年)9人、スタッフなど4人

②実施目的

瀬戸田地域の地域コアとして考えられる瀬戸田の持つ「おもてなし」の文化を中心として、柑橘、電動アシスト付き自転車、平山郁夫画伯ゆかりの地などを織り交ぜた交流事業を実施し、瀬戸田地域の主要なターゲットとなり得る都市部の熟年層のニーズと、将来的に増加が期待される外国人観光客のニーズを把握することにより、瀬戸田地域の地域コアを活用した今後の地域づくりを検討するものである。

③参加対象

参加対象は、主に、以下の2つの属性とした。

○広島市内居住外国人

瀬戸田地域の観光資源に対する外国人観光客のニーズを把握するためには、訪日外国人旅行者を対象とするのではなく、日本国内の他の観光地の状況により詳しい日本に在住している外国人(本調査では広島市周辺に在住している外国人)を対象とした。外国人として、瀬戸田地域の歴史文化、特に興福寺や向上寺などの歴史資源、しおまち商店街、町並みなどがどのように評価されるかを探るものである。また、通訳ボランティアガイドの方にも体験していただき、外国人と観光随行している立場から、ガイドの立場で、外国人にどのようなものが良いかを評価されるかを探る。

○広島市内居住の熟年女性、夫婦

団塊の世代が急増し、旅行ニーズが高まることが予想される都市部の熟年層のニーズを把握するためには、主に中国圏の最大都市である広島市在住の熟年層を対象として、瀬戸田地域の歴史、料理、みかん、おもてなしなどがどのように受け入れられるかを検討するものである。将来的に口コミなどの情報発信やリピーターとしてとして期待するものである。

④ツアーの行程・概要

午前：全員での共通コース

	日 程	備 考
共通 コース	8:00 広島駅新幹線口出発 (車内でコース説明) (小谷PAで休息)	<ul style="list-style-type: none"> ・しまなみガイド瀬戸田会・ボランティアガイド：5人(10人に1人のガイド)による説明 ・開会式、班分け確認、自己紹介、コースなど説明、注意事項説明等 ・各地点でガイド説明を受ける。 ・特に丁寧な説明を受ける。 ・瀬戸内海の眺望を眺める。 ・商店街での買物。
	10:00 汐待亭到着	
	10:05 スタッフ、ガイド等挨拶	
	10:10 汐待亭出発	
	10:15 平山郁夫画伯生家・ニツ井戸	
	10:35 向上寺	
	10:45 国宝三重塔	
	11:00 潮音山公園	
	11:15 未来心の丘眺望場所 六地藏	
	11:30 しおまち商店街	

午後：1コース(興福寺での座禅、レモン足湯コース)

	日 程	備 考
1 コース	11:30 しおまち商店街通過 (遊歩道沿いからの瀬戸内海の眺望)	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街での買物。 ・説明付きでの鑑賞。
	11:45 興福寺到着 ・住職の挨拶 ・レモンの足湯 ・お茶・塩粥 ・座禅	
	13:45 興福寺出発	
	13:55 しおまち商店街散策	
	14:15 平山郁夫美術館 ・瀬戸田島文化の紹介(30分) ・絵の観賞	
集合 ・休憩	15:30 平山郁夫美術館で休息 ・アンケート記入等	
	16:00 平山郁夫美術館出発 (小谷PAで休息)	
	18:00 広島駅新幹線口到着	

午後：2コース（農園でのみかんもぎ取り、電動アシスト自転車コース）

	日 程	備 考
2 コ ー ス	11:35 昼食場所に到着 (しおまち商店街)	・昼食場所（若葉穴子飯、又はちどり食堂蛸飯）
	12:00 昼食場所出発	
	12:20 観光協会レンタサイクル到着	・電動アシスト自転車での移動。
	12:50 出発 高根島周遊 ・柑橘園見学 ・景色眺望	
	15:00 観光協会レンタサイクル到着	
	15:00 しおまち商店街散策	・観光農園での説明、体験。
	15:30 平山郁夫美術館到着	
集 合 ・ 休 憩	15:30 平山郁夫美術館で休息 ・アンケート記入等 ・美術館見学	
	16:00 平山郁夫美術館出発 (小谷PAで休息)	
	18:00 広島駅新幹線口到着・解散	

午後：3コース（農園のレモン谷体験コース）

	日 程	備 考
3 コ ー ス	11:35 昼食場所到着	・昼食場所（若葉穴子飯、又はちどり食堂蛸飯）
	12:35 昼食場所（車で移動）	
	13:00 農園に到着 ・各種柑橘の説明 ・柑橘の収穫体験 ・レモン谷案内	・観光バスでの移動 ・農園での説明、体験
	14:40 農園出発	
	15:10 しおまち商店街到着、散策	
	15:30 平山郁夫美術館に到着	
	集 合 ・ 休 憩	15:30 平山郁夫美術館で休息 ・アンケート記入等 ・美術館見学
16:00 平山郁夫美術館出発 (小谷PAで休息)		
18:00 広島駅新幹線口到着・解散		

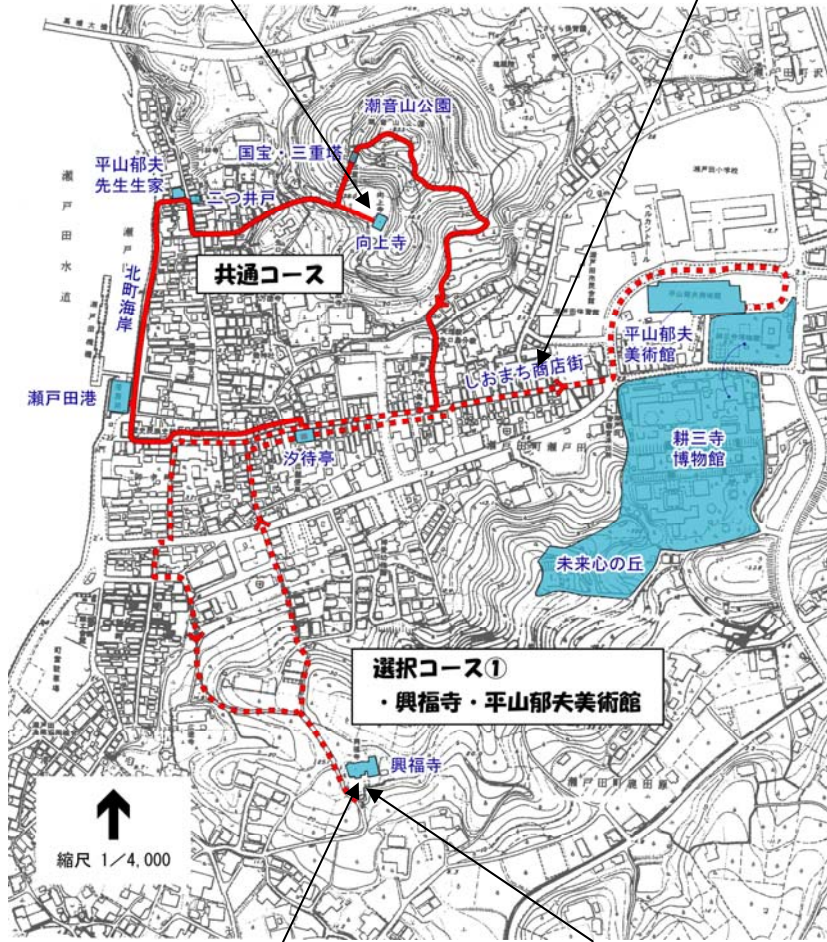
⑤ ツアー実施状況 (写真)



向上寺(ガイド付き)※共通コース



しおまち商店街散策(買い物) ※共通



興福寺での座禅体験 ※1コース



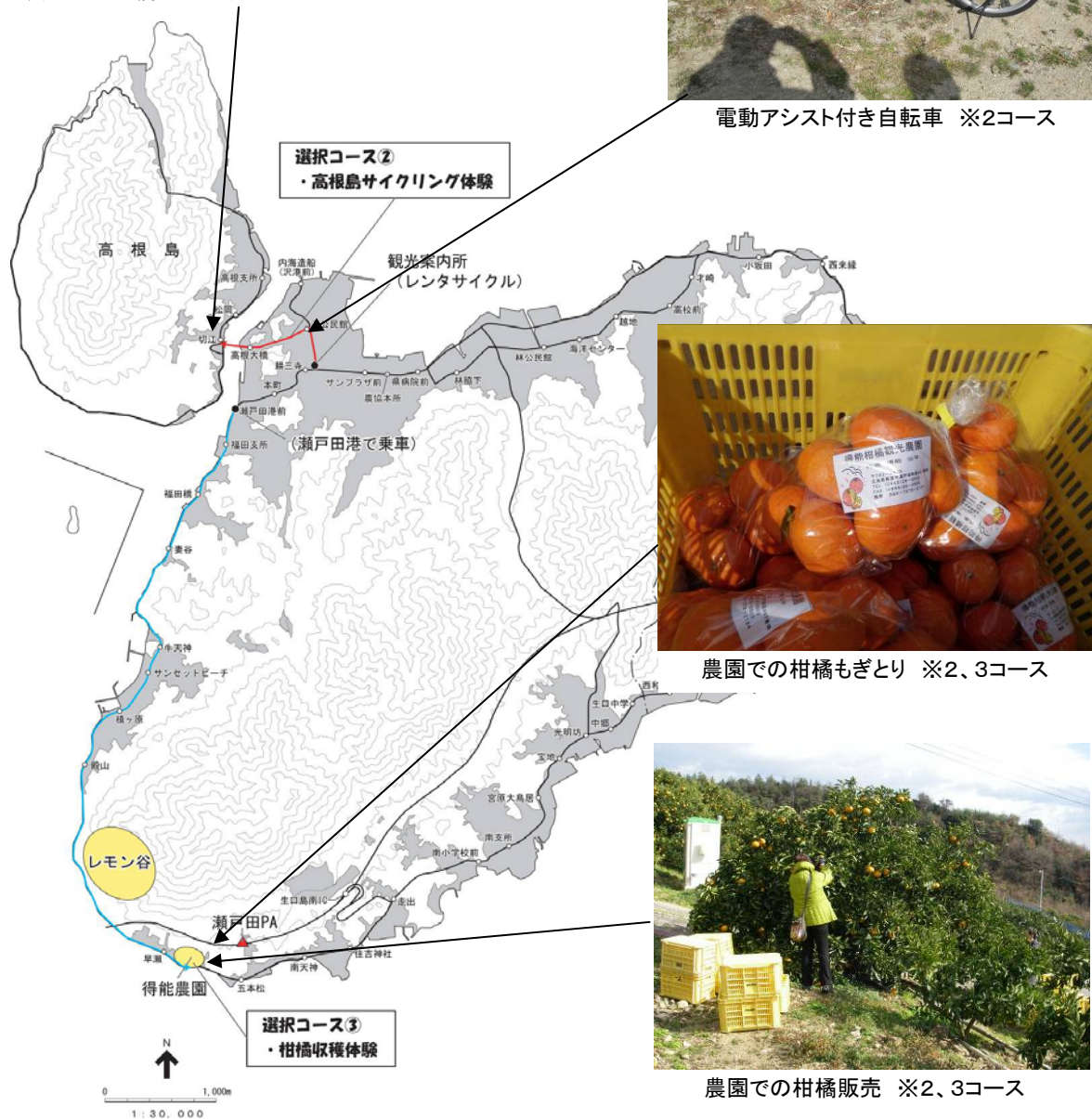
レモン足湯(1人ずつ桶を用意)※1コース



農園での柑橘もぎとり説明 ※2、3コース



電動アシスト付き自転車 ※2コース



農園での柑橘もぎとり ※2、3コース



農園での柑橘販売 ※2、3コース

⑥新聞掲載状況

中国新聞（平成 22 年 1 月 24 日）備三面に「足湯や座禅 瀬戸田発信」として実施内容が掲載された。

(2) 世羅地域

①実施日時

日時 平成22年3月7日(日) 午前9:00～午後1:30
場所 世羅町東上原、西上原地区等
参加人数 78名(スタッフ等は除く)

②実施目的

世羅町地域では、中国横断自動車道尾道一甲山間が平成22年度に部分開通する予定となっており、横断道と石見銀山街道ルートがほぼ重なる世羅町にあっては、中国横断道尾道松江線は「平成の銀山街道」とも言えるものである。横断道開通は、石見銀が運搬された「道」の変遷に関心を寄せる契機になると考えられる。

世羅町地域の試行的調査では、ハード面の地域コアとしての甲山インターチェンジ(仮称)を契機として、ソフト面の地域コアとしての銀山街道を活用した地域活性化の取組みを実施し、町内に残る貴重な歴史資源を活用した今後の取組につなげることを目的とする。

また、世羅町の観光施設を周遊する際には道路の高低差がネックとなっており、町内観光の周遊性を高めるための移動手段として、電動アシスト自転車を利用することで、世羅高原周回レンタル・エコチャリ(貸アシスト自転車)の有益性を検証することも目的とする。

ターゲットとしては、世羅町内の方の参加により地域資源の再発見、再確認につなげるとともに、世羅町外の一般の方に参加頂き、世羅町でのウォーキング、電動アシスト自転車を体験していただき、世羅町の地域コアを活用した今後の地域づくりを検討するものである。

③参加対象

参加対象は、主に、以下の2つの属性とした。

○世羅町民

世羅町にある歴史資源を見直し、交流資源としての可能性を検討するとともに、地元の身近な存在でありながら、活用が十分ではなかった資源に関して、どのように評価されるかを探るものである。

○世羅町以外の住民

今後、尾道松江線開通に伴い、しまなみ海道沿線や尾道方面からの観光客が増加することが予想され、また、銀山街道ルートにある島根県側、三次方面との連携を探るため、沿線自治体の住民の参加を促すものである。

④ ツアーの行程・概要

時刻	行程
9:00	受付・集合 世羅町役場（甲山自治センター前）
9:00	開会式
9:15	班編成後、出発 徒歩組はマイクロバスに乗車し、「もみの木」地点までバス移動 自転車組は集合後出発（1列走行厳守） 徒歩組は甲山IC予定地直近の石州街道、もみのき交差点で降車
9:30	回国塔道標・金比羅社・力石・茶屋の段案内
9:45	石州街道本道を甲山町（まち）「御銀蔵」めざして南下
9:50	報恩寺国指定重要文化財 聖観音立像・十一面観音立像拝観
10:00	赤屋八幡神社参拝
11:00	赤屋下から集落を案内
11:30	（戦国時代の山城＝砂走城、赤屋合戦＝毛利氏と尼子氏・新山・早山ヶ城山） 新山一里塚にて休憩（仮設トイレ設置、茶屋による飲み物提供）
11:45	刀川、相撲場→宗政坂（今回で一番長い古道、ゴルフ練習場横）
12:00	→良辻堂、御銀蔵 ゴール：甲山町（まち）「御銀蔵」隣接の「大田庄歴史館」
12:45	甲山自治センター2階で、豚汁・むすび、ジェラート「銀山街道」の提供、食事

⑤ ツアーの実施状況（写真）



電動アシスト付き自転車での周遊



銀しゃりを運ぶ馬を先頭に歩く



歴史ガイドによる説明



銀しゃりむすび、豚汁など地元のおもてなし

⑥ 新聞掲載状況

中国新聞（平成 22 年 2 月 24 日）備三面に「徒歩や自転車で银山街道ツアー」として予告記事が掲載され、中国新聞（平成 22 年 3 月 8 日）備三面に「銀シャリで街道行列再現」として実施内容が掲載された。

4) 試行的調査の評価（アンケート調査結果からみた留意事項）

(1) 尾道市瀬戸田地域

①日本人ツアー客の意見への対応

ア 瀬戸田町のイメージ、魅力について

瀬戸田町のイメージやシンボルとして現状で高く評価された項目は、「瀬戸内海の気候、風景、眺望」と「平山郁夫美術館など施設、ゆかりの場所」の2項目である。今回、ツアーコースに含めなかったため、耕三寺博物館の割合は低くなっている。

瀬戸田町のイメージやシンボルとして将来伸びて欲しい、または期待される項目としては「しおまち商店街・町並み」が21.6%で最も割合が高く、次いで「向上寺などの神社仏閣」及び「平山郁夫美術館など施設、ゆかりの場所」10.8%の順である。

現状で評価されている瀬戸内海の景観や平山郁夫美術館に加えて耕三寺博物館がこの地域の強みであり、こうした要素をより一層魅力化するとともに、来訪客が楽しく散策する上でしおまち商店街の再生、魅力化が求められている。

イ ツアーコースについて

今回のモニターツアーについては、ほとんどの参加者が満足している。特に、レモン足湯の体験は評価が高かった。

ただし、時間的なゆとりが少なかったと感じている参加者が多く、しおまち商店街、柑橘農家、スタッフを含めて地元の人と交流する時間、自由に行動できる時間の確保を今後は考える必要がある。

<今後の取組>

- ・団体ツアーの場合は、規定コース時間と自由行動時間へのバランスに配慮する。
- ・家族、グループへの場合は、ニーズを踏まえたコース紹介、コース案内を行う。

ウ ガイド・スタッフについて

「地元の人との協力・支援体制」については高い評価になっており、地元人が案内し、交流することの重要性が感じられる。

しかし、ガイドについては高齢化するとともに人材が不足してきており、今回のツアーにおいても「声が小さい」、「説明不十分」等の意見があり、現状のガイドでは来訪客に不満があるものと考えられる。このため、向上寺周辺だけでなく、瀬戸田町をガイドできる新たなガイドの育成を図る必要がある。

また、農家スタッフからガイドとしての地域を深めたいという声もあり、従来のボランティアガイドだけでなく、交流事業に関係する様々な人が知識を深めていくことも重要である。

<今後の取組>

- ・公民館活動と連携して、瀬戸田町歴史文化講座を開催し、瀬戸田町についての学

習を深める。

- ・尾道市観光課が取り組んでいるガイド養成事業と連携した取組
- ・以前に瀬戸田町が作成したガイド育成テキストを基本に、歴史文化に詳しい人のヒアリング（平山館長等）等により必要な情報を加えて、新規ガイド育成テキストを作成する。

エ 観光基盤施設について

向上寺周辺トイレの整備や参道への高齢者向け手すりの整備等が求められている。また、案内標識の不足も指摘されている。

オ 食事について

瀬戸田町の郷土料理として浜子鍋を出したが、味が濃かった、値段とのバランスで期待はずれであったとの意見があった。

今回の意見を踏まえて、浜子鍋の味を改善し、町全体の名物料理に育てる必要がある。

また、食事については、いろいろな物を少しずつ食べたい人（コロッケ、チキン、ロールケーキ等）、蛸料理を食べたい人等様々であり、団体ツアーにおける食事の提供のあり方を検討する必要がある。

<今後の取組>

- ・浜子鍋の味の改善、レシピの作成・普及
- ・各飲食店で値段を統一し（例えば 1,000 円）、しおまち商店街の各飲食店で得意料理を提供する。
（ツアー客に、いくつかのメニューから選択してもらう）
- ・ちょびっとグルメ（ワンコイングルメ）の検討（ツアー客だけでなくサイクリストへの対応）

キ 瀬戸田町への再訪意向等について

瀬戸田町へ来訪意向のある人は 9 割以上であるが、「何度も来たい」と答えた積極的な人は 8.1%と 1 割未満であり、この種のツアーを組む場合はもっとインパクトのある企画にする必要がある。

ク 今回モニターツアーの旅行代金について

熟年世代は、交通費を含めた旅行代金として 6,000 円以上と答えた人が 5 割以上、交通費を含めない瀬戸田町内での旅行代金としては 3,000 円以上が 7 割以上になっており、こうした金額を基本に今後のツアー企画を検討する必要がある。

一方、外国人客は、交通費を含めた旅行代金として 6,000 円未満と答えた人が 7 割以上、交通費を含めない瀬戸田町内での旅行代金としては 2,000 円未満が約 6 割になっており、熟年世代に比べて金額が低くなっており、こうした金額を踏まえたツアー企画を検討する必要がある。

ケ 土産物等について

熟年世代は、しおまち商店街を周遊しながら、様々な土産物を購入していたが、外国人は柑橘に対する関心は低く、日本の歴史文化に関わる物への関心が高く、汐待亭にあった焼き物を購入する人がいた。

②外国人ツアー客の意見への対応

外国人の場合は、日本の歴史文化に対する関心が高く、耕三寺博物館を含めたコースづくりを検討する必要がある。

また、外国人向けの案愛標識の設置、外国人のニーズの把握を踏まえた土産物の開発、販売等を検討する。

さらに、外国人客は、交通費を含めた旅行代金として6,000円未満と答えた人が7割以上、交通費を含めない瀬戸田町内での旅行代金としては2,000円未満が約6割になっており、日本人ツアー客に比べて金額が低くなっており、外国人の感覚とマッチする格安ツアー企画を検討する必要がある。

③外国人通訳ガイドの意見への対応

アンケート調査結果の内容は、日本人ツアー客と同様の評価である。その中で、下記のような要望があり、外国人ツアーを企画する場合の参考にする必要がある。

- ・坐禅体験の後の法話、質問時間の設定、お粥の代わりに抹茶とお菓子を出す。
- ・坐禅は15分程度に短くする。
- ・お粥体験は、外国人に難しい。白ご飯を要望。
- ・外国人向けの案内標識が欲しい。
- ・耕三寺をコースに入れる。

(2) 世羅地域

①町内参加者の意見への対応

ア 銀山街道に関わる歴史の高い評価について

町内参加者にとって、自分達の地域の歴史を深く知る機会となったことが高く評価された。銀山街道の古道の整備、また歴史に関する知識の伝承等を通じ、地域への誇りと愛着、自信を醸成することが可能と考えられる。

<今後の取組>

- ・定期的な開催の希望、参加者自身の運動不足についての言及等があったことから、健康増進の観点と銀山街道の歴史伝承を結びつけ、定期開催に発展させる。

イ 地域づくりへの関心について

町内参加者のうち積極的に地域づくり活動へ参加する意向のある人は6割を超えていることから、銀山街道をテーマとした試行的調査のように地域資源の再発見するイベントの継続的な開催は、関心のある地域住民の参加を促すものと考えられる。

<今後の取組>

- ・事業の継続的な実施により、関心のある地域住民の幅広い参加を促し、事業運営側への新たな参加者を受け入れ、幅広く地域住民の横断的ネットワークを形成する。

②町外参加者の意見への対応

ア 歴史遺産、せら高原の田園環境、風景・眺望への高い評価について

町外参加者からは、世羅町の歴史遺産及びせら高原の田園環境、風景・眺望が高く評価された。一方、ガイドの説明等に改善を求める声もあったが、時間をかけて準備された、心のこもったもてなしを評価する声もあった。

<今後の取組>

- ・ニーズの高い地域資源を中心としたモデルコースを設定し、PRする。
- ・歴史研究者を中心とした銀山街道の歴史伝承に関する勉強会企画を通じてガイドのスキルアップを図る。

イ 食事について

地域の食材を活かした食事である世羅米、豚汁、ジェラート等が高く評価されており、世羅町地域においてイメージの薄かった「食」について、地域食材を活用した商品の提供が期待される。

<今後の取組>

- ・ウォーキングの健康志向とマッチする食事、地元食材の提供のあり方について、6次産業ネットワークなど、農業関係者や飲食店等と連携した取組を行う。

③今回の試行的調査の負担額について

町内、町外参加者ともに、約4割が1000円以上の負担を受容する意見となっており、試行的調査の内容に対する評価が高いと言える。事業の継続的实施に向けて、必要経費と参加費のバランスを検討していく必要があるが、収益を確保することができるツアー実施の可能性が高いと考えられる。

5) 試行的調査を踏まえた展開

①瀬戸田地域における展開

- ・ 試行的調査の検討段階で設立した「せとだ島・じまん会議」については、地域住民から代表を選出するなど、継続して運営していくことが決定した。
- ・ 「せとだ島・じまん会議」は、瀬戸田地域内の様々な動きの情報交換を行う場となることが期待されるため、様々な関係者の参加を促し、情報の発信・周知手法を構築していくこととしている。
- ・ 平成 22 年度 of 取組については、外国人ツアーの受け入れや、ガイドの養成、ガイドブックの更新などが挙げられており、各種助成事業への応募などによる活動資金の確保などを積極的に行うこととしている。

②世羅町地域における展開

- ・ 試行的調査の検討段階で設立した「銀しゃりツアー実行委員会」については、名称を「銀の道せらの会」として、NPO せらマルベリークラブを中心に継続して運営していくことが決定した。
- ・ 「銀の道せらの会」は、地元自治センターや商工会、観光協会の参加により事業展開を行い、文化財協会等とも連携を図っていくこととしている。
- ・ 平成 22 年度 of 取組については、銀山街道沿線の活動団体を集めたシンポジウムの開催や、地元散策マップの作成、ボランティアガイドの養成などが挙げられている。

③広域的な連携への展開

- ・ 平成 22 年 2 月 27 日には、尾道市において「まちづくり交流会 i n 尾道」が開催され、試行的調査における瀬戸田地域・世羅町地域の取組を含め、しまなみ海道及び尾道松江線沿線の市町の担い手の取組が発表され、情報の共有が図られた。
- ・ また、平成 22 年 3 月 7 日の世羅町地域における試行的調査「銀しゃりを運ぼうツアー」の終了後には、銀山街道沿線及びしまなみ海道沿線の取組主体が集まり、銀山街道をテーマとして意見交換会が開催された。
- ・ 今後も、世羅町地域における「銀の道せらの会」を中心としたシンポジウムの実施等、銀山街道をテーマとして島根県大田市～広島県尾道市までの沿線の活動団体の連携が図られることが期待される。
- ・ また、山陽道、銀山街道、しまなみ海道の結節点となる尾道市を中心として、各地の地域づくり団体の情報交換、情報共有が図られることが期待される。

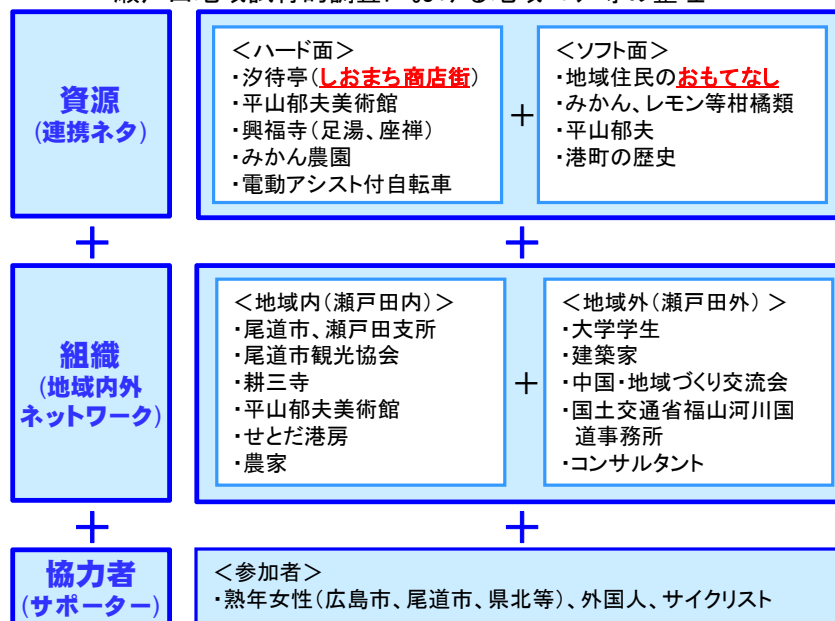
5. 試行的調査を基にした広域的地域活性化推進に関する検討

1) 試行的調査から得られた知見

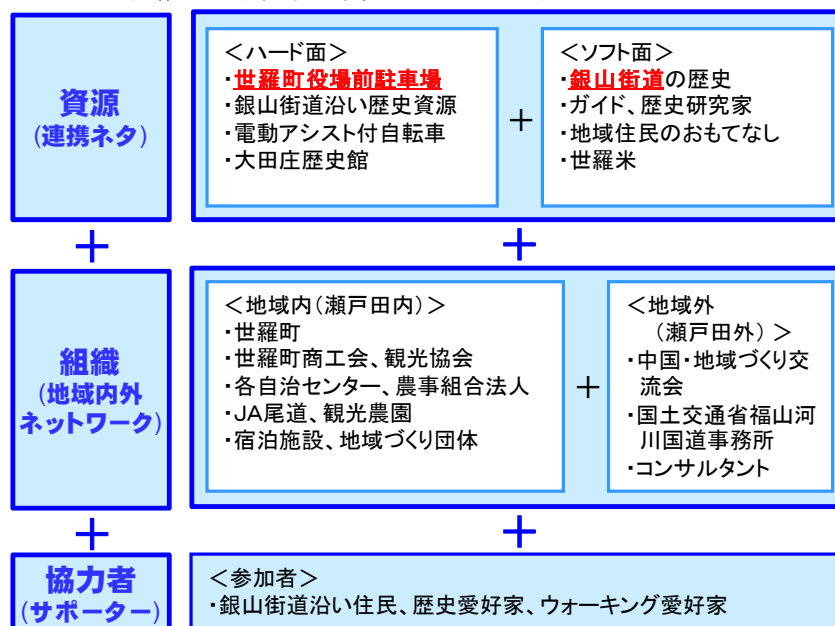
①試行的調査における地域コア等

- ・瀬戸田地域および世羅町地域の試行的調査における地域コアを整理すると、ハード面、ソフト面の資源（連携ネタ）だけでなく、地域内・外の人的ネットワークにより形成される組織や、参加者・サポーターとなる協力者など、人のつながりがキーポイントとなっていることがわかった。

瀬戸田地域試行的調査における地域コア等の整理



世羅町地域試行的調査における地域コアの整理



※下線部は後述する中心的な役割を果たす地域コア

②地域コアの構築に向けた検討体制

- ・地域コアの検討及び試行的調査の企画・実施にあたっては、瀬戸田地域、世羅町地域ともに地域内・外の人的ネットワークにより形成される組織を設置したことにより、地域の多様な情報交換の場となった。
- ・組織設置にあたっては、「この指とまれ方式」により行ったことにより、個々の構成員の主体的な参加がみられた。
- ・組織の継続的な活動にあたっては、瀬戸田地域においてはNPOせとだ港房が中心的な存在となり尾道市観光協会が事務局的な役割を担う方向で検討が進んでおり、また世羅地域ではNPOマルベリークラブが中心となり世羅町観光協会が事務局的な役割を担うなど、中心的なキープレイヤーの存在と事務局的な役割を担う主体が結びつくことが活動を継続することに効果的であることがわかった。

③地域コアの発掘手法

- ・横断的で多様な主体によるフラットな体制により検討を行ったことで、瀬戸田地域、世羅町地域ともに複数の地域コアの発掘を行うことができた。
- ・また、複数挙げられた地域コアをベースとして、試行的調査の内容の検討を進めるうち、瀬戸田地域における「しおまち商店街（汐待亭）」や「おもてなしの文化」、世羅町地域における「銀山街道」や「役場前駐車場」など、中心的な役割を果たす地域コアを抽出することができた。すなわち、各地域における様々な地域コアの訴求力は、検討する主体や事業の目的により濃淡があるが、横断的な検討体制により、より訴求力の高いものを抽出していくことが可能であることがわかった。
- ・モニターツアー等の今回採用した試行的調査手法は、外部からの目による地域資源の発見とともに、地域内の人々も地域の資源、宝を発見し、地域を再認識することができる等、その有効性が確認された。一方、モニターツアーにおいて評価の低かった資源についても、今後の改善の方向性、補うべき点を明らかにすることができた。また、地域の人々にガイド等のスタッフとして参加していただくことで、地域に関する勉強等スキルアップの意識高揚、関係者による連携の必要性を認識する等、今後の活動を支える人材を育成する効果も期待される。
- ・瀬戸田地域における外国人観光客を対象とした歴史文化体験や、世羅地域の観光周遊における電動アシスト付き自転車は有望な地域コアと推定されたが、試行的調査においてターゲットを明確に設定し、その反応を把握することにより、より詳細に地域コアの有効性の検討につながることがわかった。

④地域コアによる広域連携手法

- ・世羅町地域における「銀山街道」という地域コアは、大田市（石見銀山）から尾道市までの「道」であり、沿線各地において「銀山街道」を活用した地域活性化の取組みがなされていることから、広域的な連携を図ることができる地域コアであることが推定された。また、試行的調査における参加者意見において、街道そのもの及び街道沿線の歴史的資源への高い評価、また街道の踏破や街道沿線の他

地域への関心等も伺うことができたほか、試行的調査後の沿線各地の活動団体による意見交換会においても「銀山街道」をテーマとした活発な意見交換がなされたことから、広域連携における地域コアとしての街道の有効性が確認できた。

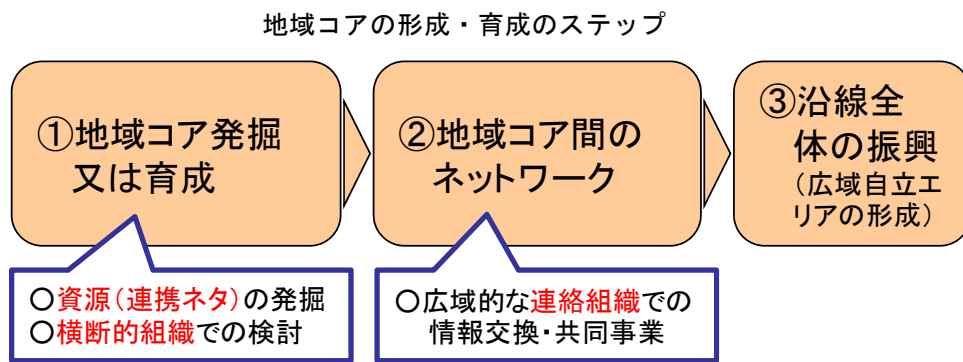
- また、瀬戸田地域における電動アシスト付き自転車の活用は、しまなみ海道を「自転車」という地域コアでつなぐだけでなく、世羅町地域においても試行的調査において体験者の高い満足度が確認でき、高齢者等の長距離の移動における身体的負担を軽減できる、より広域的な連携に資する地域コアであることがわかった。
- 試行的調査対象地域である瀬戸田地域及び世羅町地域を含め、山陽道、銀山街道、しまなみ海道の結節点となる尾道市において「まちづくり交流会 in 尾道」が実施され、各地域の取組みの状況について広域的な情報交換が行われたことは、試行的調査で発掘した各地における地域コアはそれ自体が「連携ネタ」として捉えることができることを意味する。このような「連携ネタ」を各地に情報提供することにより、相互の関心を誘引し、広域連携の素地を形成することが可能であることがわかった。

2) 地域コア活用による広域的な地域活性化推進に関する検討

(1) 地域コアの形成・育成手法

試行的調査を踏まえ、中国圏の各地域、特に中山間地域や島しょ部において自立的な地域を形成していくためには、各地域における資源（連携ネタ）の発掘、横断的組織での検討などによる地域コア発掘又は育成を行った上で、広域的な連絡組織での情報交換や共同事業を行う地域コア間のネットワーク化することが必要であり、またそのことにより、沿線全体の振興（広域自立エリアの形成）につながると考えられる。

その際に、「地域コア」を最終的につなぐ又はつなげていくのは、地域の人材であり、多様な主体や異なる地域の主体がネットワークを構築し、連携していくことが重要な視点として挙げられる。



(2) 横断的組織の形成・運営手法

また、地域コア発掘・育成にあたっての横断的組織のメリットは、課題に応じて、参加する団体・者が有する資源を最適に利活用でき、縦割りの弊害もないことがあげられる。このためには、そのプレーヤーとしては、住民、都市住民、民間企業、NPO、観光協会、商工会議所、コンサル、自治体、県、国等の多様な団体・個人が、積極的参加意識のもとで、当該主体に期待される役割を果たすことが必要である。

さらに、世羅町においてはNPOと観光協会が中心となり継続的な事業を行うことが検討されており、瀬戸田地域においてはNPOせとだ港房を中心として尾道市観光協会が事務局的功能を担うことが検討されているように、「この指とまれ」方式の横断的組織を継続的に運営していくためには、「指」としての中心的役割及びそれを支える事務局的作用が必要である。それらの中心的役割や事務局的作用は、基本的にはどの主体でも担うことができるが、一住民では負担が大きく、行政や民間企業では横断的組織としての自由な意見交換が難しいなど、主体により得手不得手が考えられる。以下にそれぞれの役割と、その担い手として期待される主体について例示する。

「この指とまれ」方式の横断的組織における役割と担い手として期待される主体

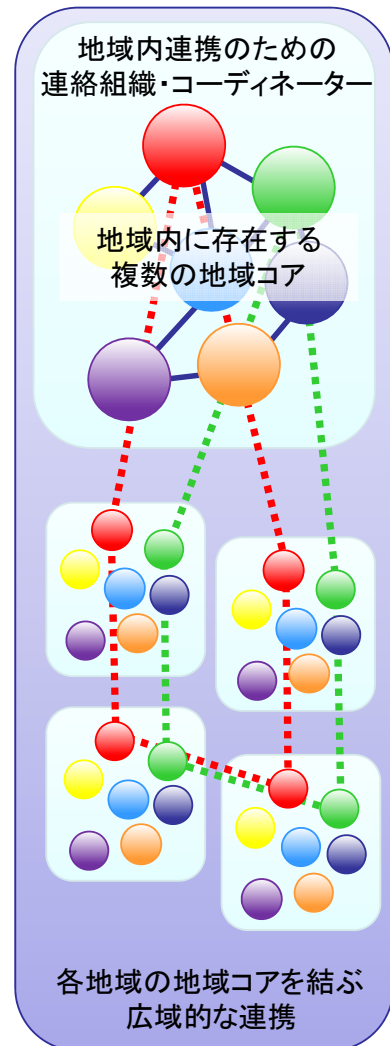
役割	期待される主体
中心的役割 (組織を牽引し、事業展開の方向性などを決定する)	NPOや市民活動団体など (地域づくりの思いを持ったグループ、ネットワークが望ましい)
事務局的作用 (各メンバーへの連絡調整、情報共有の促進、対外的な事務手続きなどを担う)	観光協会、商工会議所など (行政や民間団体など多様な主体との連携が比較的容易な団体が望ましい)
側面支援的作用 (主体的な参加、それぞれの得意分野の持ち寄りなど)	行政、民間企業、市民、コンサルタントなど (それぞれが得意分野を持ち、横断的組織に主体的に参加することが求められる)

(3) 地域コア活用による地域活性化の展開

今回の試行的調査は、観光、集客の面で地域全体のブランドやイメージを高め、立ち寄り・滞留につながる地域コア機能を確認したが、「多様な主体が集まったフラットな横断的組織による検討手法」を活用した今後の展開案として、医療・福祉、安心安全の観点で地域コアが発揮すべき機能、役割も考えられる。例えば、地域の医療・福祉機能を集約したハード的な地域コアを形成し、その地域コアを中心として多様な主体が集まった横断的組織が設立されることにより、医療施設や福祉施設が単独では難しかった相互連携を促進させ、地域の医療福祉活動の活発化、ひいては安心して暮らせる地域としてのアイデンティティの確立につながることも考えられる。

また、地域内にはハード、ソフト両面において複数の地域コアが存在すると考えられる。各地域の活性化を図るためには、それぞれの地域コアを中心として集まる横断的組織をつなぐ連絡組織やコーディネーターが必要である。このような地域内の地域コアのネットワーク化においては、地域内の多様なテーマを扱うことから自治体等の支援が必要不可欠となるため、自治体等にはこうした地域コア及びそのネットワーク化の有効性に関する理解が求められる。

さらに、広域的な連携にあたっては、「地域コア」の中でも特にソフト面における地域コア（地域のアイデンティティやテーマ）が効果的と思われることから、広域的につながりを持ち、ソフト面における地域コアに関する情報共有や共同事業を行うことが、広域的な地域活性化及び各地域の活性化において重要なポイントとなる。

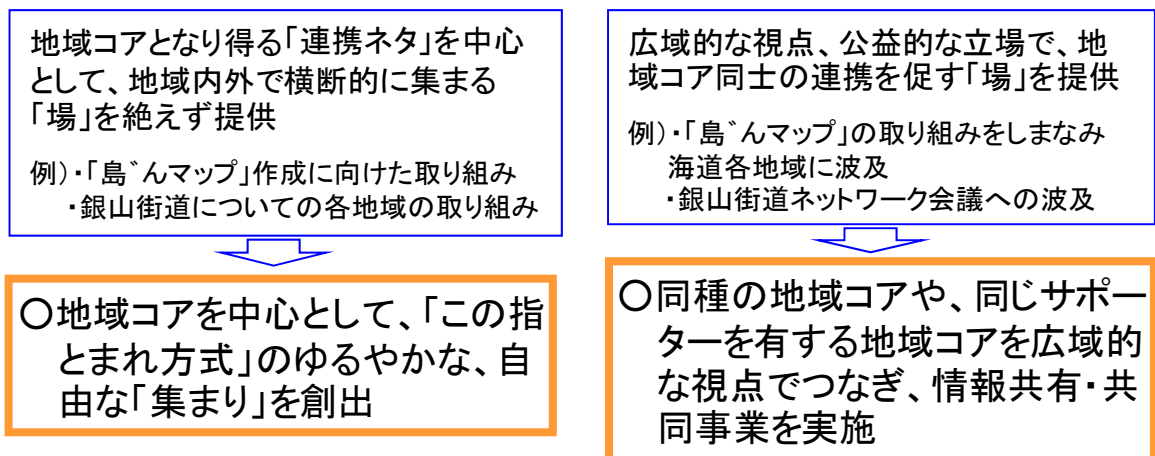


(4) 地域コア活用による広域自立エリア形成に向けた支援方策

以上の検討を踏まえると、地域内の横断的な連携を促進するための支援方策として、地域コアとなり得る「連携ネタ」を絶えず提供しつづけ、地域内外の関係者が「この指とまれ方式」で集まれる「場」を提供し続けることが重要である。このような「場」が継続することにより、「地域への誇りと愛着、自信」そして「住民同士の信頼関係の構築」が達成できる。また、広域的な連携を促進するためには、広域的な視点及び公益的な立場で地域コア同士の連携を促す「場」を提供し続けることが重要である。
(支援方策内容と尾道市・世羅町を例とした即地的なイメージを次頁に示す)

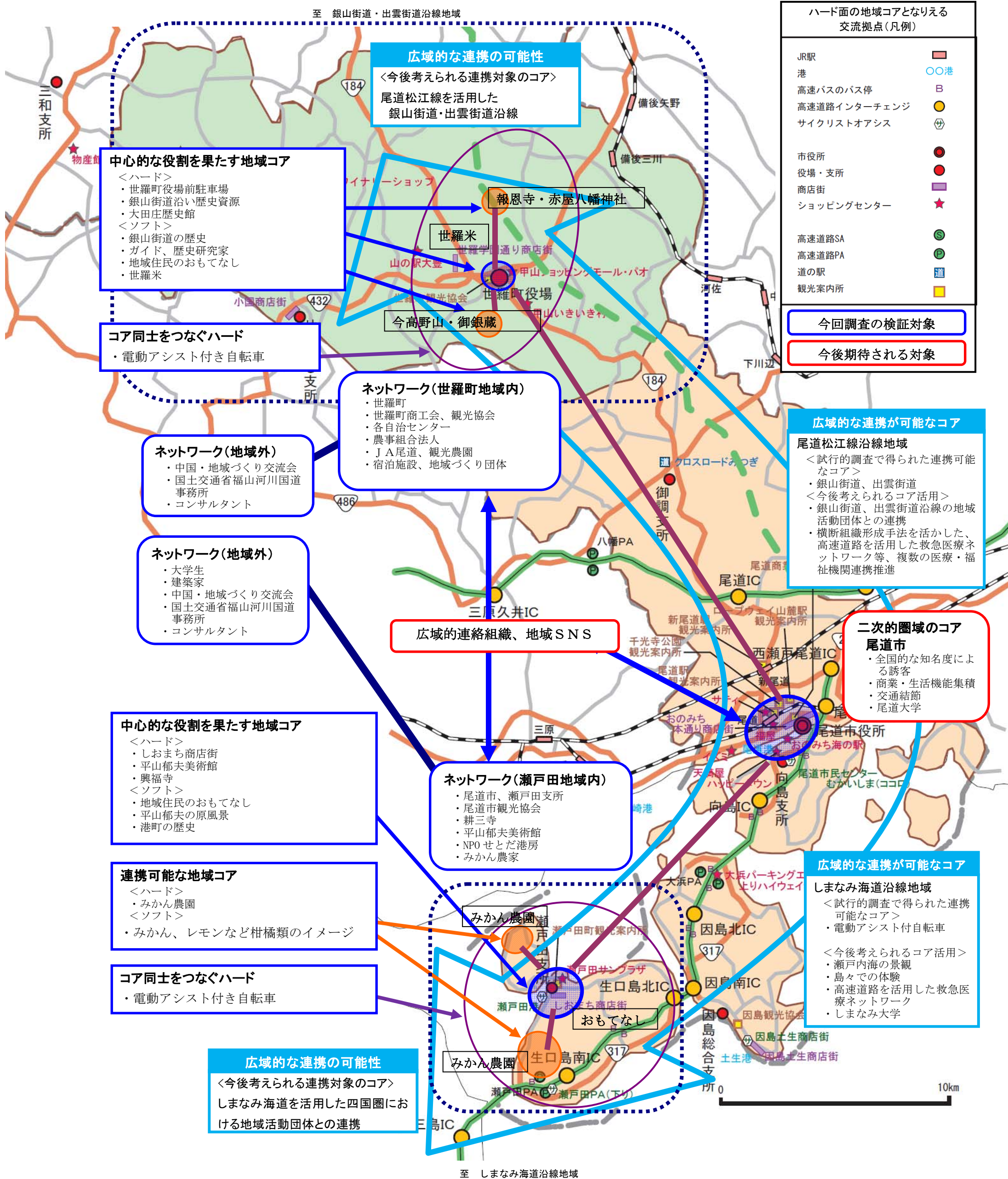
その際の課題としては、前述したように「この指とまれ方式」で集まった場の組織化にあたって、多様な人材の参加とともに、リーダー人材の選出・確保が重要である。また、継続的な活動のため、何らかの事業による収入の確保、また会費や協賛金等の事業収入以外の資金確保等、経済面においても自立を目指すことが必要であり、参加する各主体がそれぞれの得意分野を活かして協働することが望まれる。

「地域コア」活用に向けた支援方策



試行的調査で発掘した地域コア及び活用・連携の可能性のイメージ

※本件イメージは調査検討を通じて、中国地方整備局が今後の可能性を仮想したもので、実際の行政・各団体の活動予定等を示したものではありません



ハード面の地域コアとなりえる
交流拠点(凡例)

JR駅	■
港	○
高速バスのバス停	B
高速道路インターチェンジ	●
サイクリストオアシス	⊕
市役所	●
役場・支所	●
商店街	■
ショッピングセンター	★
高速道路SA	⊙
高速道路PA	⊙
道の駅	道
観光案内所	■

今回調査の検証対象

今後期待される対象

広域的な連携の可能性
 <今後考えられる連携対象のコア>
 尾道松江線を活用した
 銀山街道・出雲街道沿線

中心的な役割を果たす地域コア
 <ハード>
 ・世羅町役場前駐車場
 ・銀山街道沿い歴史資源
 ・大田庄歴史館
 <ソフト>
 ・銀山街道の歴史
 ・ガイド、歴史研究者
 ・地域住民のおもてなし
 ・世羅米

コア同士をつなぐハード
 ・電動アシスト付き自転車

ネットワーク(世羅町地域内)
 ・世羅町
 ・世羅町商工会、観光協会
 ・各自治センター
 ・農事組合法人
 ・JA尾道、観光農園
 ・宿泊施設、地域づくり団体

ネットワーク(地域外)
 ・中国・地域づくり交流会
 ・国土交通省福山河川国道事務所
 ・コンサルタント

ネットワーク(地域外)
 ・大学生
 ・建築家
 ・中国・地域づくり交流会
 ・国土交通省福山河川国道事務所
 ・コンサルタント

広域的連絡組織、地域SNS

広域的な連携が可能なコア
 尾道松江線沿線地域
 <試行的調査で得られた連携可能なコア>
 ・銀山街道、出雲街道
 <今後考えられるコア活用>
 ・銀山街道、出雲街道沿線の地域活動団体との連携
 ・横断組織形成手法を活かした、高速道路を活用した救急医療ネットワーク等、複数の医療・福祉機関連携推進

二次的圏域のコア
 尾道市
 ・全国的な知名度による誘客
 ・商業・生活機能集積
 ・交通結節
 ・尾道大学

中心的な役割を果たす地域コア
 <ハード>
 ・しおまち商店街
 ・平山郁夫美術館
 ・興福寺
 <ソフト>
 ・地域住民のおもてなし
 ・平山郁夫の原風景
 ・港町の歴史

ネットワーク(瀬戸田地域内)
 ・尾道市、瀬戸田支所
 ・尾道市観光協会
 ・耕三寺
 ・平山郁夫美術館
 ・NPOせとだ港房
 ・みかん農家

連携可能な地域コア
 <ハード>
 ・みかん農園
 <ソフト>
 ・みかん、レモンなど柑橘類のイメージ

コア同士をつなぐハード
 ・電動アシスト付き自転車

広域的な連携が可能なコア
 しまなみ海道沿線地域
 <試行的調査で得られた連携可能なコア>
 ・電動アシスト付き自転車
 <今後考えられるコア活用>
 ・瀬戸内海の景観
 ・島々での体験
 ・高速道路を活用した救急医療ネットワーク
 ・しまなみ大学

広域的な連携の可能性
 <今後考えられる連携対象のコア>
 しまなみ海道を活用した四国圏における地域活動団体との連携